

目次

特集

無紙化傾向顕著、紙質印刷品の未来は？

無紙化の概念は数年前から話題になっていたが、それが現実味を帯びてきたのはここ数年のことである。インターネットや新媒體の急速な発展はタブレットコンピューター、電子書籍やスマホの登場を促し、こら機器の高度な機能は無紙化が現実化するのではないかと予測される事態となってきた。

多くの新聞が紙媒体の発行を停止し、電子版に 1 本化することを発表している。「華東街日報」は、紙媒体の広告収入が 2016 年に 2013 年比 8%減少した。一方電子媒体の広告が増加した。紙媒体の収益は広告収入に頼っているため、「華東街日報」は紙媒体の発行を停止し電子媒体に一本化することを正式に発表した。

「ボストン・グローブ(The Boston Globe)」は、1872 年創刊のマサチューセッツ州ボストンにおいて最大の部数を発行するアメリカ合衆国の日刊新聞であるが、広告収入が激減したことを理由に 6 月で紙媒体を廃刊にすることを正式に決定した。

「ドイツ鉄道」は伝統的紙切符の発行を 3 年以内に逐次廃止し、すべて電子チケットとすることを決定した。

1. 紙質印刷品の無紙化はすぐ目の前に迫っているか？

「華東街日報」の紙媒体用紙の購入量は 2016 年、2007 年比 10%減少している。この数字を大きいと見るか、小さいと見るかは立場によって異なるが、新聞媒体の経営者は広告収入の減少はこれから 3 年間で年間 30%減少すると見込んでいる。これは広告収入が損益に直結する紙媒体にとって死活問題で、紙媒体の無紙化は急速に進むと予測される。

2. 紙質印刷品は無紙化の流れの中で生き残るか？

新聞媒体の無紙化が急速に進むことは避けがたいが、紙質印刷品は十分生き残れると予測される。最大の用途が商品カタログ分野である。特に高級商品は紙質印刷品が不可欠である。また、タブロイド紙や少量多品種の印刷物は無数にある。紙質印刷品は重要な情報発信減としてしぶとく生き残るものと思われる。しかし、今後どのような新しい

情報媒体が出現するかは予想できない。

(本稿は中国包装網 7 月 6 日を参考にした)

1. 業界動向、統計数字

(1) 2022 年、着色剤市場は 65.65 億ドルに

着色剤の市場は 2016 年には 47.45 億ドルに達したが、2022 年には 65.65 億ドルに達する見込。2017 年から 2022 年の増加率は約 5%と見られる。(中国包装網 8 月 4 日)

(2) 北京 2020 年までにゴミ分類推進、宅配便包装回収を徹底

今年 3 月、国務院弁公庁は《生活垃圾分类制度实施方案》を發布、2020 年底までに、北京近郊の 46 城市で先行して生活ゴミの強制分類を実施する。生活ゴミ回収利用率要求 35%以上。強制的主体は公共機構および相关企业、党政機構、事業単位、社団組織、学校、医院、駅舎、ホテル、食堂、ショッピングセンター等を含む。

(中国網 8 月 8 日)

(3) コンテナ輸送量、7 月 9.8%増加、アジア発北米向けが好調

米調査機関データマインが 10 日発表した 7 月のアジア発米国向け海上コンテナ輸送量は 140 万 992 個 (20 フィートコンテナ換算) で、前年同月と比べて 9.8%増えた。米国の住宅着工の伸びを映して家具類の出荷が 17.9%増えた。機械類やプラスチック製品、電子機器も好調だった。出荷国別では全体の 6 割を占める中国が 12.1%増えたほか、ベトナムが 5 割増となった。日本は 3.6%増だった。(日経 8 月 11 日)

(4) 中国製紙産業、70%の原料を輸入に依拠

中国の廃紙利用率は低く、中国の製紙業は原料の 70%を輸入に頼っている。中国の輸入パルプ量は世界の半分を占めている。(中国包装網 8 月 11 日)

2. 政策・法規

3. 新製品、新材料

(1) 回収可能葡萄酒新包装

米国カリフォルニア州の“The Naked Grape”葡萄酒会社は最近 3 リットル入りの“盒中袋”(bag-in-box)葡萄酒新包装を開発した。この中袋は回収再利用が可能

である。(中国包装網 8 月 9 日)

4. 環境、安全、リサイクル

5. 物流

(1) 唐山港の京唐地区のコンテナ取扱量が 100 万個を突破

唐山港集団の情報によると、2017 年 7 月末時点の唐山港京唐港区コンテナ輸送量は 100 万 1200TEU (20 フィートコンテナ換算個数) で、前年同期比で 35.72%増加した。(中国網 8 月 10 日)

6. 中国プラスワン

(1) 段ボール原料高、日本の大手採算悪化

王子ホールディングスとレンゴーは 2 日に 2017 年 4～6 月期の連結決算を発表し、ともに純利益は減少した。段ボールの原料高の影響を受けた。電子商取引 (EC) の普及で荷物を梱包する段ボールの需要は広がっているが、原材料高で採算が悪化し、王子HDの純利益は前年同期比 23%減の 56 億円、レンゴーは 24%減の 34 億円だった。段ボール原紙の主原料は段ボール古紙で、価格は前年同期に比べ 6 割上昇した。物流量が増えている中国で現地の段ボールメーカーによる古紙の需要が高まり、日本国内からの輸出価格が上がった。その結果、国内での取引価格も連れ高となった。(日経 8 月 3 日)

以上